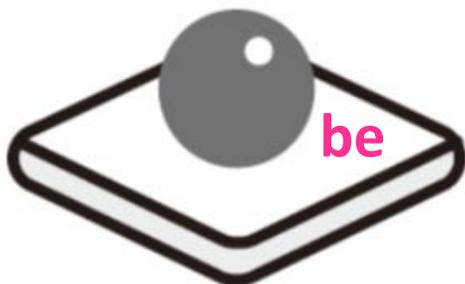


< 基本動詞 > BEの世界

CORE IMAGE



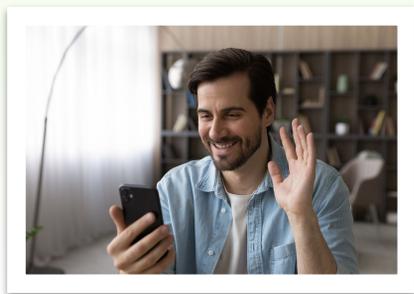
何かがどこかにある

I'm here!



BE の名詞形である BEING の意味は「存在」であり、BE のコアも「何かがどこかに在る」として捉えることができます。

典型的には **I'm here.** (ぼくはここに居るよ) だとか **She is in the kitchen.** (彼女は台所にいます) があります。



I'm here.

ぼくはここに居るよ



She **is** in the kitchen.

彼女は台所にいます

また、ハムレットの有名な言葉、**To be or not to be. That is the question.** も「在るべきか
在らぬべきか(つまり、生きるべきか死ぬべきか)、それが問題だ」ということで、「存在」がその
まま be で表現されています。

また、デカルトの有名な言葉「我思う故に、我在り」は英語では、**I think; therefore, I am.** に
なります。**Let it be.** は「何か it で指すものがどこに在ろうとあるがままにさせる」ということ
で、あえて「どこに」を示さない表現です。**God is.** も同じで、「神は存在する」ということで「どこ
に」は示されません。



God is.

神は存在する

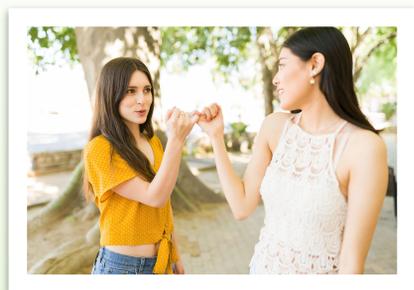
BE のコアは「**何か**が**どこか**にある」ということで、**I'm here.** のように「どこか」が場所になる場
合が基本です。**John is happy.** は「場所」が「状態」にシフトした例で、「ジョンはハッピーな状
態に在る」ということです。**John is singing in the rain.** (ジョンは雨の中で歌っている)は状
態が連続的な状態になった例です。このように、場所から状態、状態から連続的な状態へとシ
フトさせると BE の持ち味が理解できるでしょう。

さらに、**John was beaten by Bill.** のような受動文ですが、これも <beaten by Bill という完
了した状態に置かれていた> と解することが可能です。慣用化した表現例として以下のような
ものがあります。



Be considerate of other people.

他人には思いやりを持ちなさい



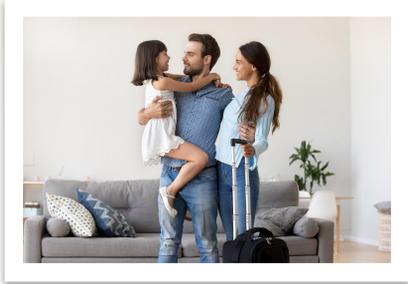
A promise is a promise.

約束は約束だよ



Boys will **be** boys.

やっぱり男の子は男の子だな



I'**m** home.

ただいま



Be a good man, Johnny.

いい男になれ、ジョニー

be の基本である、**John is a student.** はジョンがどこに在るのかといえば、学生という範疇に1メンバー (a member of the category “student”) としてあるということです。

student

